

かけはし



平成26年度学校だより
大府市立共和西小学校
26年12月22日号

校長の話の巻

平成26年もいよいよ最終の月。フィギュアスケートの羽生選手の活躍、日本人3人のノーベル物理学賞受賞など、おめでたいニュースで締めくくることができそうです。本校の子どもたちも、2学期に大きな成長を遂げて、めでたく2学期を締めくくることができます。子どもたちが素晴らしいと思うのは、それぞれの学年なりに、目標を決めて努力を続けてきたことです。

下の二人の文章を読むと、その辺りのことが詳しく書いてあります。九九を覚えるのにうまくいかない、でも、覚えるための強い決意をもって努力を続ける、大豆という一つの役柄にかける情熱。エピソードこそ違え、どの子どもも持っている気持ちの有り様です。

6年生は、自分たちの将来への夢を、目に見える形にする、というドリームマップ作りの学習をしました。

「飛行機を安全に飛ばせる整備士」「みんなの生活が便利になる電器製品会社の社員」「子どもたちを笑わせる作品をかく漫画家」「貧しい国の子どもたちに学校をつくる」など、学習を通して知った様々な事柄の中から、自分が向かいたい道を選択しました。そして、目標にゴールするために、今やらなければいけないことを考えました。どの子どもとても堅実に考え、自分の可能性を胸に刻むことができました。小学校卒業を迎えた年に、自分の夢を形にすることができたのも、目標に向かって努力を続けるという姿勢の集大成といえるでしょう。

さて、冬休み。冬休みもまた、わくわく感たっぷりの長期のお休みです。子どもたちに願うことはただ二つ。「健康に気をつけ、思い切り楽しく過ごす。」1月7日に元気な子どもたちに会えることを楽しみに、少し早いですが、皆様、良いお年をお迎えくださいませ。



「これがぼくのドリームマップ」

~~~~~ 終業式に発表しました。「2学期がんばったこと」 ~~~~~

### 2年 金澤佳音

私がんばったことは二つあります。一つ目は算数です。算数でがんばったところは、かけ算と三角形・四角形です。なぜかという、かけ算の四の読み方を「よん」と間違えてしまって、なかなか九九れっしゃ(九九合格証)に乗れなかったからです。だから、お風呂のときに言ったり、お家の勉強のはじめに言ったりしました。大変だったけどがんばりました。後、九九マスターなどでやりました。特に、4, 6, 7, 8をがんばって練習しました。九九マスターを出してくれたおかげで、九九がすらすらできるようになりました。そのときは、すごくうれしくてうれしくてたまりませんでした。

二つ目は係の仕事です。私は音楽係で、はじめは、前に音楽係だった瑛子さんに、歌のつけ方を何度も教えてもらってばかりでした。教えてもらってばかりだったので、瑛子さんに、「今日はできる？」とか「今日は大丈夫？」とか言われてました。瑛子さんは優しいです。私が覚えるまで教えてくれたからです。でも、今はできます。瑛子さんが教えてくれたおかげでできるようになりました。私は、次の音楽係になった人に、瑛子さんみたいに教えてあげたいです。

### 3年 加藤拓実

ぼくが2学期にがんばったことは、漢字と学習発表会です。

漢字では、宿題が出たときに、習った漢字で文章を書くことをがんばりました。

「一行練習」の次なので、「一行練習」をしている間に、文を考えます。ぼくは、物語に出てくるような文章を考えることにしました。

学習発表会では、「えいようたっぷり 大豆がへんしん」の博士の役をしました。ぼくががんばったのは、なわとびを輪のようにして、演技をすることです。

炒り豆を紹介するときは、「炒り豆、炒り豆」と言いながら、なわとびの輪の中でひたすら跳びました。これは、豆が煎られている様子を表しています。

煮豆のときには、「煮豆～」と、しゃがみ、じっくり煮る様子を表しました。

きな粉のときは、輪の中をぐるぐる回って、石臼で大豆を挽く様子を表しました。大豆の変身をうまく表せたと思います。

3学期は、持久走大会とギネス大会があります。いい記録が出せるようにがんばりたいです。漢字では、これからも習った漢字を使って、おもしろい文を書きたいです。

# おめでとう 受賞

J A 共催交通安全ポスターコンクール

銅賞 3年 森永佑莉

「家庭の日」県民運動啓発ポスター  
入選

1年 中山 壘偉, 2年 飛永 眞瑚  
2年 畠中 優芽, 4年 原田 麗桜

多読書 (2学期 79冊)

4年 熊野 里咲, 5年 山口 彩花  
(2学期50冊以上読めた子が、全校で  
60名いました。)

## 使われるのではなく 使いましょう

スーパーなどでは、子どもがスマホでゲームをしながら通路を歩いている、保護者の方はその子に注意をするわけではない、ファミリーレストランなどでは、子どもがやはり食べながらゲームをしている、保護者の方は、ずっとスマホに夢中、家族で会話はなし? などという様子を時々見かけます。

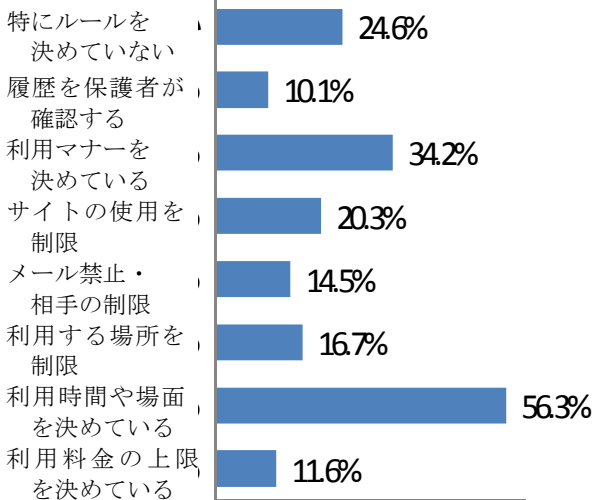
市内小中学生の情報端末機の使い方等について、10月にアンケートをしました。小学6年生の結果を見てみましょう。(920名)

○持っている情報端末 ( ) 内は中一の結果

|            |       |        |
|------------|-------|--------|
| 携帯ゲーム機     | 73.8% | (48.9) |
| 携帯音楽プレーヤー  | 30.5% | (32.3) |
| 子ども向け携帯電話  | 19.0% | (7.5)  |
| タブレット型携帯端末 | 13.9% | (24.9) |
| スマートフォン    | 13.6% | (43.0) |

使用している時間は、1時間以上2時間未満の子が最も多かったです。

持っている子たちは家庭のルールについて以下のグラフのように答えています。「利用する時間や場面を決めて利用」という回答が多く、これが守られているのなら安心です。皆さんのご家庭でも、情報端末について、考える機会にしていただけたらと思います。



## 授業がいちばん

何と言っても授業が勝負。子どもたちの日常の授業風景をお伝えするコーナーです。

「みんな違ってみんないい。」このことを認識するのに、こんなにぴったりな授業はありません。4年1組天野学級の学級活動です。

最初は、「四つの部屋」というエクササイズです。四つのものを並べて、好きな場所へ移動。選んだ理由を伝え合います。そこを選んだ理由をきちんと伝えることが大事になってきます。「春・夏・秋・冬」「飼ってみるなら、犬・猫・象・ハムスター」。



夏を選んだ子たちの理由を聞いてみましょう。

「夏休みがあるから。」「暑いところから、エアコンが効いた涼しい部屋に入った瞬間がいい。」ここで、他の子たちの「ああ〜。」という同意の反応。全員が選んだ理由を伝え合います。同じ項目を選んだ子たちでも、それぞれ理由が違います。



「あっ、そういう考えもあるんだ。それもなかなかいいな。」「一緒、一緒。」と子どもたちは、「納得」を心の中に積み重ねていきます。

次は、「ジョハリの窓」というエクササイズです。ちょっと説明が難しいのですが……。6人ぐらいのグループになります。「もしお金がいっぱいあったら何をするか。」がお題。

- ・世界旅行をする
- ・自分の欲しいものを買う
- ・とりあえず貯金する
- ・困っている人に寄付する
- ・ディズニーランドを貸り切って遊びまくる

Aさんが何に○を付けるか予想します。グループの子全員が、一人一人の予想をカードに記入。本人が付けた項目とどれだけ一致するか見ていきます。

「Aさんは、どうするでしょうか。」「せいの。」でグループでカードを出し合います。「合ってた、合ってた。」「やっぱりね。だいたい分かるもん。」「意外!」カードが出される度に、口々に子どもたちの歓声が。いかにも楽しそうにエクササイズに取り組む子どもたち。授業後には、自然に本時のねらいをクリアできました。

ねらいは「自分を見直す」「新しい気づきなどを通して自分への理解を深める」「他者への理解を深める」「お互いに認め合える関係作りをする」です。子どもたちの表情からは、「発見!」の喜びが生き生きと伝わってきました。

